



難治性アレルギー疾患に対する鍼灸治療 —アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療—

鍼灸学部 加齢鍼灸学教室
附属病院 内科学教室

江川 雅人
苗村 健治

アトピー性皮膚炎も鍼灸治療でおおるの？

アトピー性皮膚炎は、悪化を繰り返す、かゆみを伴った湿疹を主症状とする皮膚疾患です。現代医学の治療として、ステロイド外用剤を中心とした薬物治療が行われますが、薬を塗ってもなかなか良くならない患者さんが増えており、毎年、多くのアトピーの患者さん鍼灸治療を希望して来院されます。明治国際医療大学では、アトピー性皮膚炎の患者さんを、鍼灸医学的に4つのタイプに分類し、鍼灸治療を行っています。その結果、平均27回の鍼灸治療により、約80%の患者さんにおいて、かゆみ(掻痒感)や湿疹(皮疹)の軽減が認められました。また、皮膚の症状ばかりでなく、血液検査によって、アレルギー体質も改善することが確かめられました。鍼灸治療では、皮膚の状態ばかりでなく、食欲や睡眠など全身の症状や精神的な変化を含めた全身的な症状に対する治療を行うことにより、効果を示すと考えられています。

鍼灸治療を行うための鍼灸医学的な4分類

1. 風熱証 (乾燥や紅斑を主とするタイプ)
治療経穴 → 曲池、大椎、血海、膈俞
2. 風湿証 (湿潤傾向の強いタイプ)
治療経穴 → 豊隆、中かん、陰陵泉
3. 風寒証 (全身に冷え症状を伴うタイプ)
治療経穴 → 足三里、陽池、命門
4. 気血両虚証 (皮疹が軽度あるいは変動が少ないタイプ)

治療経穴 → 合谷、氣海、三陰交

アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療は左の表に示す4つのタイプに分けて行います。さらに、患者さんの訴える、食欲の低下、不眠、肩こりなどの全身症状にも鍼灸治療を行います。鍼灸治療の頻度は1週間に1~2回。アレルギー体質に伴う症状ですから、10回程度は根気よく治療を続けます。

アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療の例

右の写真は2年以上にわたり鍼灸治療を続けた、難治性アトピー性皮膚炎の患者さん(28歳、女性)の皮膚症状の変化です。ステロイド薬でも効果がなかった湿疹は、鍼灸治療開始から約2年間で、きれいな肌を取り戻しました。



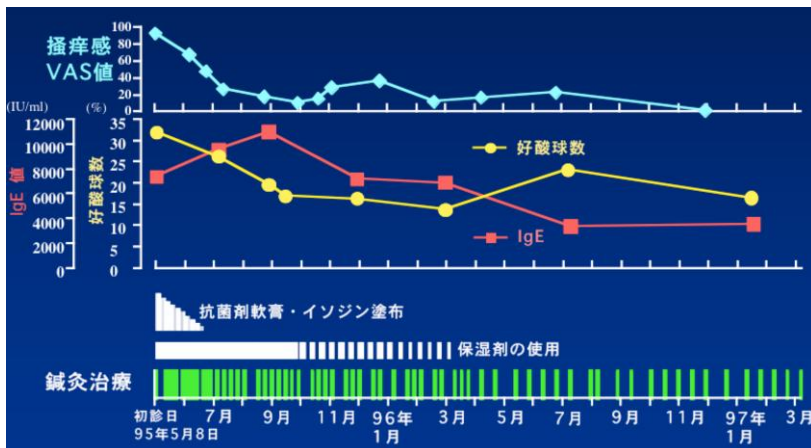
鍼灸治療前



鍼灸治療60回後



鍼灸治療120回後



左のグラフは、上写真の患者さんのかゆみ(掻痒感)と、血液検査の経過を示したものです。かゆみの軽減だけでなく、好酸球数(アレルギー性炎症の強さ)やIgE値(アレルギー体質の強さ)の低下が認められ、鍼灸治療によるアレルギー疾患としての改善が認められました。